

# バリ島プダワ村の伝統的家屋における生活の変容

## Transformation of Lifestyle in Traditional House of Pedawa Village in Bali

奥山研究室 16M50004 阿部光葉 (ABE, Mitsuha)

### 1. 研究の背景と目的

インドネシアは世界第4位の人口を抱える一方で都市人口の割合は低く、多くの人は郊外や農村に住まい、土着の文化や生業が形成されてきた。しかし現在は至る所で近代化と観光地化の波が押し寄せる状況にある。その一つであるプダワ村は山奥の集落でありながらバリ島という国際的観光地に位置するため、伝統的家屋を保存・復元し、その活用を模索する動きがみられると同時に、近代化に伴う現代的家屋との併用や、自然材料と産業材料の併用による伝統的家屋の多様な変容がみられる事例である。このような産業化や観光地化などによる影響が混在する現状を考察することは、これからのインドネシアにおける持続可能な伝統的家屋と生活を考える上で重要である。そこで本稿はプダワ村の伝統的家屋と家財の材料と配置を調査・分析することで<sup>1)</sup>、伝統的家屋における生活の変容を明らかにすることを目的とする。

### 2. 伝統的家屋の概要

**2-1. 伝統的家屋の分布と平面構成** 27軒の伝統的家屋のうち18軒は村の住宅密集地に残存し(図2)、その他は農地近くに点在する。各世帯は前面テラスを持つ宝形屋根の母屋と婚姻祠、米倉などを敷地内に持つ。木造の骨組みを竹材の屋根と壁が覆う盛土された土間住居であり、住居内部の対角には大小2つの寝台が配置され、もう一方の対角には釜戸と水瓶が置かれる“Bandung

Rangki”という形式である(図3)。これを原形としているものを伝統的家屋として定義し、調査対象とした<sup>2)</sup>。

**2-2. 居住単位と住戸配置** 伝統的家屋には敷地内に現代的家屋や東屋などの小屋が併設されたものが多く、その内訳を調査すると、24軒中17軒は敷地内に現代的家屋<sup>3)</sup>を持つことが分かった(表1)。そこで伝統的家屋と現代的家屋の住戸配置を分類した結果、敷地内に伝統的家屋のみを有するもの(A 伝統的家屋単独型)、伝統的家屋と現代住居が庇で連結したもの(B 伝統的家屋・現代的家屋連結型)、敷地内の空地に現代的家屋を有するもの(C 伝統的家屋・現代住居併存型)がみられた(図4)。敷地形状によって並列的に2軒が並ぶ場合と比べ、直列的に並ぶ場合は両者は庇で連結され雨の日も行き来できる例が多い。また居住者の世帯構成も調査した結果、夫婦またはその子供を含む夫婦家族が最も多く、次に後継の子世帯を含む直系家族、単身世帯の順に多くみられた(表2)。また、定期的な手入れはあるものの現在は空家となっているものが2軒、主に展示利用を目的とした原形を復元した別宅が1軒であった。

### 3 伝統的家屋の材料からみる生活の変容

**3-1. 伝統的家屋の材料** 現存する伝統的家屋の多くは大幅な改修を行っており、建設当時の材料と新しい建築材料が混在する状況である。建設当時の状態を原形として図5に示した<sup>4)</sup>。これを基準に現在の各部位の材料



図1. 伝統的家屋と米倉

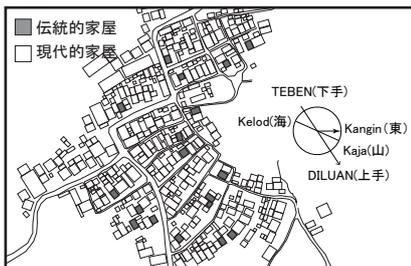


図2. 村中心部における伝統的家屋18軒の配置

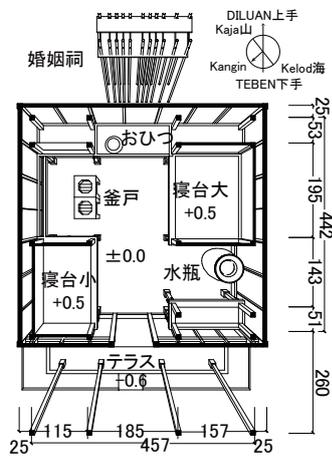


図3. 伝統的家屋の平面構成

<b>A</b> 伝統的家屋 単独型 (7)	伝統的住居
<b>B</b> 伝統的家屋・ 現代的家屋連結型 (7)	現代的家屋 伝統的住居  <B-1 直列連結型> (5) <B-2 並列連結型> (2)
<b>C</b> 伝統的家屋・ 現代的家屋併存型 (10)	 <C-1 直列併存型> (3) <C-2 並列併存型> (7)

図4. 住戸配置の分類

表1. 敷地内の家屋の内訳

伝統的家屋のみ (4)
伝統的家屋 + 小屋 (3)
伝統的家屋 + 現代的家屋 (5)
伝統的家屋 + 小屋 + 現代家屋 (12)

表2. 居住単位の分類

複合家族 (2)	単身 (4)
直系家族 (6)	空家 (2)
夫婦家族 (9)	別宅 (1)

の内訳を調査し、原形と同じ材料 (O)、木材など他の自然材料 (N)、セメントなどの入手しやすい産業材料 (SI)、柄タイルなどの装飾性の強い産業材料 (DI) に分類した。次に家屋の材料の変容を訪問者の目に触れる入り口立面の外観、居住性がある程度求められる内観に二分して検討したところ、外観に関しては壁材として竹を継続して使用する例が多い一方で、屋根材は大半が産業材料に置き換わっており、総じて SI の割合が大きい。これは屋根が外観に及ぼす影響が小さく、雨による竹の腐食が著しいからであると考えられる。内観に関しては床材や東石材が多様であり、竹の網代の仕切りにビニールシートを貼るなどの例もみられたが、全体として O の割合が大きい。これは当時の自然材料が現代においても一定の居住性を満たしていることと捉えられる。

**3-2. 内観と外観の変容** 前説で検討した内観と外観の材料の変容について各家屋ごとに検討した結果、当初の自然材料が全面的に使用される〈不変型〉、部分的に置き換わっている〈限定変容型〉、全ての部材に産業材料などが使用される〈全体変容型〉の4つの型で捉えた(図6)。屋根材については大半が産業材料を使用していたためその他の部材の変容の組み合わせから判断している。内観は〈不変型〉の割合が多いのに対し、外観は現代的家屋の背後に隠れてしまう〈現代的家屋型〉など様々な変容のあり方がみられた。このことから、人の目や雨風に触れやすい外観は、各家庭が可能な範囲内で耐久性の高いものに変更する傾向があると考えられる。

**3-3. 伝統的家屋の材料選択の傾向** 現在使用されている材料のうち O 以外を変容と捉え、各部材の変容を屋

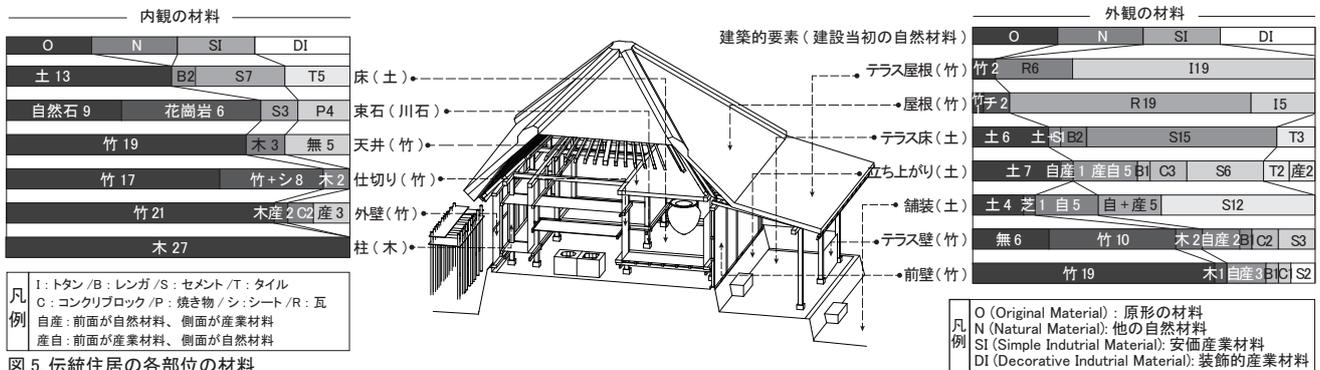


図 5. 伝統住居の各部位の材料

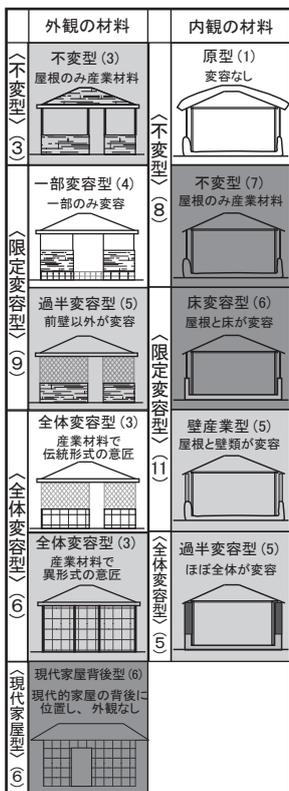


図 6. 外観と内容の変容のあり方

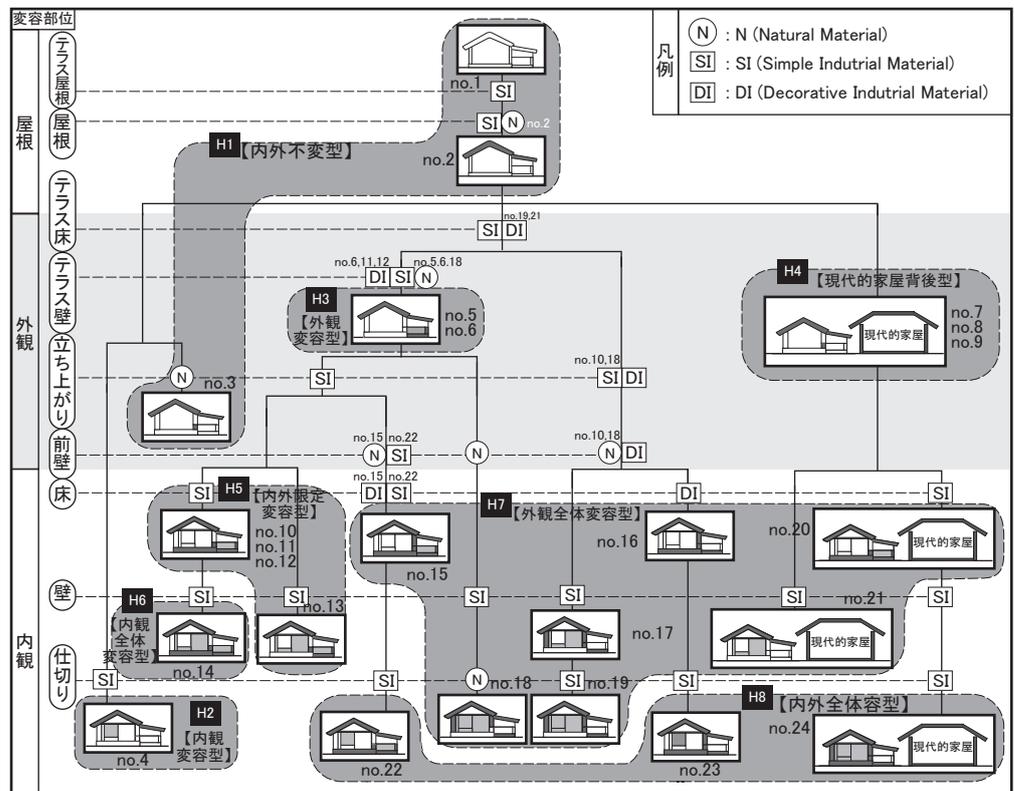


図 7. フローチャートを利用した外観と内観の材料の変容

根、外観、内観の順でフローチャートに示し、家屋全体の変容について検討した(図7)。その結果、ほぼ変容なし(H1)、内観のみ変容(H2)、外観のみ変容(H3・H4)、内外ともに部分的な変容(H5)、外観より内観が著しく変容(H6)、内観より外観が著しく変容(H7)、内外ともにほぼ全ての材料が変容(H8)の8タイプで捉えた。

#### 4. 家財の材料と配置からみる生活の変容

**4-1. 伝統的家屋における日常行為** 聞き取り調査を基に、伝統的家屋と現代的家屋、および米倉などを含めた敷地内のどこでどのような日常行為が行われているかといった生活の現状を図8に示した。まず敷地内に現代的家屋を持たず、睡眠・食事・調理・休息・接待の全てを行うI《原形》が3軒みられた。全ての行為を伝統的家屋で行うものの現代的家屋も併用するIIは8軒と最も多く、次に多くみられたのはIV《調理・食事》のみを伝統的家屋で行う台所のような使われ方である。またV《睡眠》のみに供される伝統的家屋の寝室としての使用や、寝食を行わないVIもみられた。このような伝統的家屋の用途の単一化と現代的家屋の併用は、生活環境の改善を目的とした敷地内の分棟化といえる。

**4-2. 主要家財の変容** ここでは伝統的家屋で重要とされる家財の材料と配置の現状、代替などがどのように起こっているかを検討する。建設当時の家財の配置は図3のようであり、儀礼に関するものを神聖な上手に配置し、釜戸にはブラフマ神、水瓶にはヴィシュヌ神が宿るとされていた。つまり家財の配置や材料の変容はこのような村のコスモロジーの捉え方の変化も意味するといえる。そこで日常行為に必須の各家財の変容度合いを原形を最上段としてフローチャートに示した(図9)。神棚などの〔儀式〕に関するものは比較の変容がみられないが、寝台は大半が物置や祭壇となっていた。〔調理〕を用途とする家財は釜戸が消滅しない一方で、ガスコンロやバケツの併用が見られる。このように家庭によって変容する家財とその基準が異なるので、材料や配置などが変わると変容段階1、それらの両方の変容や、その上に家電製品への代替がみられるなどした場合は変容段階2、消滅してしまうものは変容段階3とし、合計点が4点以下の場合を変容型G1、4-9点をG2、10点以上をG3として、各家屋の家財の変容度合いを3つに分類した。

#### 5. 伝統的家屋における生活の変容

**5-1. 家屋の材料と日常行為の関係** 3章で分析した家屋の変容フローにおける生活タイプの分布を図10に示

した。伝統的家屋の材料とそれにおける生活の関係を比較分析すると、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと伝統家屋における行為が限定されるにつれて、家屋の材料も変容度が高い。また伝統的家屋における生活タイプごとの、材料の変容、家財の変容型、住戸配置、居住単位を図11に示した。Iと同様に全ての日常行為を伝統的家屋で行うものの、複数世帯によって現代的家屋を併用するIIはIに比べて外観の変容度が高い。これは伝統的家屋と現代的家屋の連結による一体化や、世帯別の家屋の住み分けによって、両者を同じ一つの住居として捉えるためと考えられる。

**5-2. 家屋の材料と家財の関係** 家財と家屋の変容の関係性を考察する。IやIIなど伝統的家屋の利用度が高いものはG1の割合が多い一方で、VやVIのように伝統的家屋を寝室や別宅として利用している場合は家財は大きく変容し、釜戸など重要な家財が壊される場合もみられる。また用途が限定された場合でもIVとVではその資料数と家財の変容度が大きく異なる。意味付けされた〔調理〕の家財は変容せずにその行為も継続されるが、〔睡眠〕に供される家屋は不必要な家財が変容し、伝統的家屋のもつ従来の意味が薄れる傾向にある。

#### 6. 近年の伝統的家屋の位置付け

**6-1. 近年建てられた伝統的家屋における生活** 27軒中の3軒は近年建てられた新しい伝統的家屋であり、主人の意向などが反映された独自性の強いものである。それらと改築・修繕を重ねた24軒の差異と共通点を考察する。IIは居住単位に夫婦家族がみられず、複数世帯による世帯別の伝統的家屋と現代的家屋の住み分けであり、Ⅲ～Ⅴは用途別の使い分けである。これに対し、新しい伝統的家屋は居住単位も様々で、用途によって家屋を使い分ける後者のタイプである。図11より他の24軒に比べて外観より内観に変容がみられ、家財も家屋もある程度の変容に留まっている。以上より、新設された伝統的家屋は材料や外観の復元に積極的であり、その用途に関係なく家財や家屋の形式を保持することが分かった。これは形式的であっても象徴の場として当初の材料や家財を維持することがない利用が限定された古い伝統的家屋と対照的な傾向である。

**6-2. 近年建てられた伝統的家屋の位置付け** 3章で検討した家屋の材料の変容に新たに建てられた3軒を位置付けると図10のようになり、他の24軒には少ない材料選択のNIやDIが多くみられる。例えば、No.25は竹瓦の代わりに割竹や茅葺を屋根材とし、レンガを土

間に敷き詰め、No.26 と No.27 は網代竹の仕切りを木の板材に変更し、石や木目がプリントされたタイルを多用している。これより、居住性を担保しながらも当初の伝統的な様相を維持しようとする考えが見て取れる。

**7. 結** 以上、バリ島プダワ村の伝統的家屋とそれにおける生活の変容について調査分析した。自然材料による1棟型の伝統的家屋は衛生面と経済面が求められて用途が限定される中、生活の調和を表す家財の配置や役割が保持される場合と希薄化する場合があった。前者の場合、現代的家屋と同様に扱われることで家屋の材料が変容するものと、寝食分離するものの火と従来の材料の

使用を継続するものがある。後者は主要家財が利用されずに実用化が優先された私的寝室となるものである。新設された伝統的家屋は用途に関係なく家財や外観の復元に積極的なことから、新たな形式の重視がみられる。以上、3つの伝統的家屋と生活の変容の型を見出した。

注1) 調査地はインドネシア中部に位置するバリ島北部のブレレン州、人口4584名の農村プダワ村である。本稿は2018年8月と11月に行なった現存する27軒の伝統的家屋と主要家財の調査と利用状況の聞き取り調査に基づき、空間構成については2017年7月に行なった実測調査を用いる。

注2) 現存する伝統的家屋は築50～110年前後のものが大半であり、3軒のみが築10年以下の比較的新しいものであった。2章から5章に関しては、新しいものを除いた改築などの変容がみられる24軒を対象とする。

注3) ここで現代的家屋とはコンクリート造の一般的な家屋を言う。

注4) 細部まで建設当時の状態に復元した図1のWayan Skurate氏が所有する住居と聞き取り調査を参考とした。

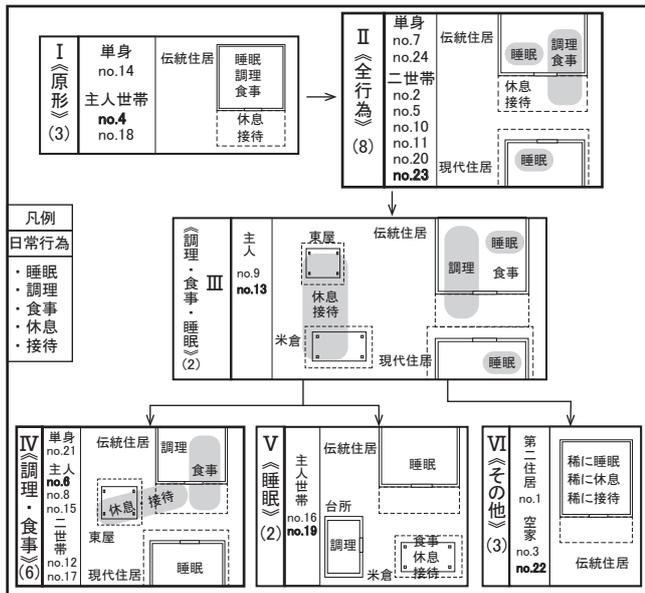


図8. 居住単位ごとの各日常行為と各場所の関係

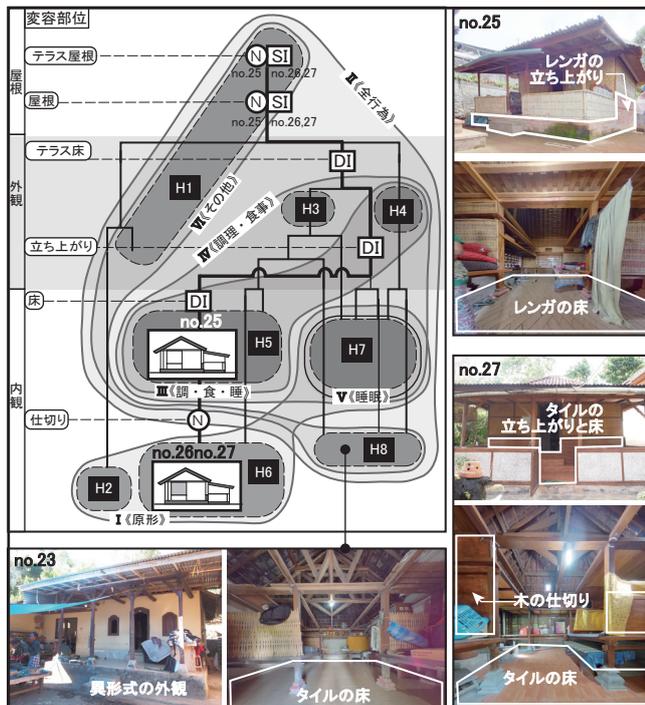


図10. 生活タイプと近年建てられた伝統的家屋の位置付け

用途 変容水準	【儀式】		【調理】		【食事】		【睡眠】	合計点
	材料	配置	材料	配置	代替	配置	代替	
原形	竹材神棚 (9)	竹材婚姻祠 (13)	土釜戸 (0)	水かめ (5)	おひつ (7)		代替 大小寝台 (4)	G1 2.4点 (7)
(1段階)	木材神棚 (14)	異種祠 (2) 竹材祠 配置変移 (3)	産業材料 土釜戸 (10) 内コンロ (2)	水かめ+ バケツ (6) 配置変移 (1) バケツ (2)	おひつ+ 外炊飯器 (1) おひつ+ 内炊飯器 (5)		片方 物置化 (12)	G2 5.0点 (9)
(2段階)		消滅 (6)	産業材料釜戸 +外コンロ (1) 産業材料釜戸 +内コンロ (7)	水かめ配置変移 +バケツ (2) バケツ配置変移 (4)	おひつ配置変移 +内炊飯器 (2)		両方 物置化 (6)	G3 10.12点 (8)
(3段階)		消滅 (1)	消滅 (3)	消滅 (4)	両方外 (3)		片方 消滅 (2)	

図9. 家財の変容フローチャート

生活タイプ	no	変容水準		外観		内観		変容型		住戸配置		居住単位
		伝統家屋	現代家屋	全体	限定	全体	限定	変容型	分類	有無	内訳	
I 《原形》 (3)	4	H2		●	●	G1	A	●	伝	夫	夫婦	
	18	H7		●	●	G1	A	●	伝	夫	夫婦	
	14	H6		●	●	G3	A	●	伝米	単	单身	
II 《全行為》 (8)	2	H1		●	●	G1	C-1	○	伝現東	直	直系	
	10	H5		●	●	G1	C-1	○	伝現庫	直	直系	
	7	H4	●	●	●	G1	B-1	○	伝現庫	単	单身	
	20	H7	●	●	●	G1	B-1	○	伝現	直	直系	
	5	H3	●	●	●	G2	C-2	○	伝現台	複	複合	
	11	H5	●	●	●	G2	C-2	○	伝現東	直	直系	
	24	H8	●	●	●	G2	B-1	○	伝現	単	单身	
23	H8	●	●	●	G3	C-2	○	伝現台米	複	複合		
III 《調理・食事・睡眠》(2)	9	H4	●	●	●	G2	B-1	○	伝現米東	夫	夫婦	
	13	H5	●	●	●	G2	C-2	○	伝現台米	夫	夫婦	
IV 《調理・食事》 (6)	12	H5	●	●	●	G1	C-2	○	伝現東	直	直系	
	6	H3	●	●	●	G2	B-2	○	伝現東	夫	夫婦	
	8	H4	●	●	●	G2	B-1	○	伝現	夫	夫婦	
	21	H7	●	●	●	G2	C-1	○	伝現	単	单身	
V 《睡眠》 (2)	17	H7	●	●	●	G2	B-2	○	伝現米東	直	直系	
	15	H7	●	●	●	G3	C-2	○	伝現米	夫	夫婦	
	16	H7	●	●	●	G3	C-2	○	伝現台東	夫	夫婦	
VI 《その他》 (3)	19	H7	●	●	●	G3	A	●	伝台米	夫	夫婦	
	1	H1		変容なし		G3	A	●	伝米	別	別宅	
	3	H1	●	●	●	G3	A	●	伝	空	空家	
《その他》 (3)	22	H8	●	●	●	G3	A	●	伝	空	空家	
	25	H5	●	●	●	G2	C-1	○	伝現米	直	直系	
	26	H6	●	●	●	G2	C-2	○	伝現台	単	单身	
27	H6	●	●	●	G2	C-2	○	伝現台東	別	別宅		

図11. 生活タイプごとの家屋の材料と家財の変容

凡例 伝：伝統的家屋 / 現：現代的家屋 / 米：米倉 / 東：東屋 / 庫：祭具庫 / 複合：複合家屋  
直系：直系家族 / 夫婦：夫婦家族 / ●：現代的家屋なし / ○：現代的家屋なし